

## 菊池農業高等学校 令和2年度(2020年度) 学校評価表

### 1 学校教育目標

『生徒が輝き、地域をきらめかせる菊農教育の創造と実践』『熊本の心』を基本理念とし、「夢への架け橋教育プラン」、「県立学校における児童生徒教育指導の重点」、「学校安全・安心推進課取組の方向」、「体育保健課取組の方向」、「人権教育の推進に当たって」、「特別支援教育の方向」、「社会教育課取組の方向」等を指針とし、本校の三綱領『向学創造の精神を培う』『敬愛協同の美徳を養う』『勤労剛健の気風を興す』の具現化に取組み、豊かな人間性と社会を生き抜く力を育て、地域と共に活気に満ち溢れた学校づくりを目指す。

#### (1) 目指す生徒象

- ・【 自分や他人を認め合い協働できる菊農生 】
- ・【 しっかりとあいさつができる菊農生 】
- ・【 夢の実現に向けて努力ができる菊農生 】
- ・【 リーダーシップがとれる菊農生 】

「基本的生活習慣を身に付け、目標の実現に周囲と協働して取組み、自分の思いや相手の気持ちが想像でき、何事にも一生懸命に努力することのできる菊農生でありたい」

#### (2) キャッチフレーズ

『菊農には夢やトキメキが隠されている！ ～それを見つけて、君の夢を実現しよう！～』

#### (3) 教師の目標

- 1 生徒一人一人を理解し、深い愛情で見守るとともに、生徒・保護者・地域の思いを理解し、目指す生徒像の実現に努める。
- 2 校務改革を意識しながら、「教師力」「担任力」そして「人間力」を磨き、生徒や保護者から尊敬され、生徒が憧れる教師を目指す。

#### (4) キーワード

教師が変われば生徒が変わる

生徒が変われば学校が変わる

学校が変われば地域が変わる

このことを念頭に置き、教師が見本を示し、生徒一人一人を大切に自己実現を図らせることで、学校や地域の活性化にもつながる。

### 2 本年度の重点目標

#### 【高等学校における教育指導の重点】

『認め、ほめ、励まし、伸ばす』教育行動指針を踏まえた教育の充実を目指して

- 1 確かな学力の育成と個に応じた指導の充実
- 2 キャリア教育の推進と個性を生かした進路指導の充実
- 3 道徳教育の充実と命を大切にする心の育成
- 4 国家・社会の形成者としての資質の育成と国際社会に生きる日本人としての自覚の醸成
- 5 体力の向上、心身の健康の保持増進及び安全教育の充実

### 【学校安全・安心推進課取組の方向】

- 1 生徒指導の充実
  - ①魅力あるより良い学校・学級づくり
  - ②不登校対策・適応指導の充実
- 2 いじめの未然防止と対応の充実
  - ①未然防止の充実
  - ②早期対応の充実
- 3 学校の安全教育及び安全管理の充実
  - ①安全教育の充実
  - ②安全管理の充実

### 【体育保健課取組の方向】

- 1 学校体育の充実と生徒の体力向上に向けた取組の推進
- 2 保健教育・食育の充実と保健管理の徹底
- 3 「する・みる・ささえる」スポーツの推進と県立スポーツ施設の充実

### 【人権教育推進に当たって】

『人権尊重の精神に立った学校づくり』

(全体的な取組)

- ①「多様性」に対する理解の推進
- ② 関係法令・施策等の理解の促進
- ③ 教育実践上の課題等についての日常的な交流の促進

(個別的な取組)

- ① 様々な人権問題に関する学習の充実を図る。 指導に当たっては、理解の状況を把握し、継続的な指導を行う  
(「第三次とりまとめ」に示された理論と実践を踏まえた取組)
- ①「人権教育を通じて育てたい資質・能力」の育成
- ②「人権が尊重される授業づくり」の推進

### 【特別支援教育の取組の方向】

- 1 共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築
- 2 一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援の徹底
- 3 切れ目のない支援体制の構築
- 4 教職員の特別支援教育に係る資質と専門性の向上

### 【社会教育課の取組の方向】

- 1 家庭教育支援の充実
- 2 地域学校協働活動の推進
- 3 生涯学習の振興

### 3 自己評価総括表

| 評価項目 |   | 評価の観点                              | 具体的目標   | 具体的方策  | 評価 | 成果と課題  |
|------|---|------------------------------------|---|--|----|--|
| 大項目  | 小項目   |                                    |   |  |    |  |
| 学校経営 | 目指す生徒像実現のために学校目標の周知を図るとともに、教育活動の着実な実践による活性化を図る。 | 学校の教育目標及び本年度の重点目標の周知を図る。           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員が共通認識として実践する。</li> <li>・保護者、生徒の学校目標認識を高める。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員会議、研修等で常時啓発する。</li> <li>・学校ホームページ、生徒総会、育友会総会、広報誌等を通じて啓発を図る。</li> </ul>   | A  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍ではあったが、生徒は56%（昨年度48%）、保護者は80%（昨年度75%）、職員は自己評価において学校の教育目標に則り具体的な目標を立てているため、87%（昨年度76%）の認知であった。3者とも昨年度より認知に向上が見られた。次年度は、日頃の学習活動や学校行事等とおして更に認知度を上げる取組みを引き続き行っていきたい。</li> </ul>  |
|      |   | 自信に満ちた行動力を発揮し、社会で生き抜く力を持った生徒を育成する。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な生活習慣を身に付け、夢を語り、夢の実現に向かって、果敢に挑戦する生徒を育成する。</li> <li>・本校における通級指導体制を充実させ、全職員が理解し実践力を高める。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力の向上を図る。</li> <li>・朝読書の充実を図る。</li> <li>・農業の専門性を高める教育の推進を図る。</li> <li>・通級指導に関する職員研修等とおして、全職員への周知と共通認識を図る。</li> </ul>   | A  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力向上の取組として、SHR前に朝読書を一昨年度より実施している。落ち着いた雰囲気での学校生活のスタート、基礎学力及びクラス雰囲気の向上に繋がっている。次年度以降も続けていきたい。</li> <li>・一昨年度より希望生徒を対象に始まった「通級による指導」は十分な成果をあげている。周知活動をしているものの、生徒の47%（昨年度55%）、保護者の34%（昨年度48%）が「通級による指導」が実施されていることを詳しく知らなかった。しかし、この数値は年々低くなって来た。まずは、生徒、保護者の認知100%に向けた周知の徹底を推進したい。今年度は、4名の3年生に実施した。それぞれの生徒毎に担任、学年主任、特別支援教育コーディネーター等でアセスメント会議を行い、指導目標を立てることができた。また、各場面で生徒の情報共有を行い、生徒に合わせた指導を展開することが出来た。併せて、指導者候補を育成する仕組みを構築しなければならない。</li> <li>・特別支援教育支援員（学習・生活サポーター）の配置により、生徒の日々の安定した学校生活を大いにサポートして貰うことが出来た。</li> </ul> |
|      | 学校長を中心とした指導体制のもと学校目標を実現する。                      | 学校目標実現に向けた職員の意思統一と組織の活性化を図る。       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員研修の充実と各部の連携推進及び学科間の協力体制を促進する。</li> <li>・新入生充足率80%以上に向けた取組を行う。</li> </ul>                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒理解に係る職員研修を充実させる（学期に1～2回）。</li> <li>・学科・学年主任、各部主事等の融合を図る。</li> <li>・学年主任を中心とした学年団（生徒・職員）の結束を強化する。</li> <li>・可能な限り、県下の全公立中学校訪問を実施する。</li> <li>・獣医系大学の推薦入試受験を可能とする取組を継続する。</li> </ul> | B  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援を要する生徒や課題を抱える生徒の生徒支援、生徒指導をスムーズに実施するための職員研修（複数回）、週に1回の生徒理解・特別支援教育推進委員会の開催、関係者による教科連絡会により、情報の共有を図り継続的な支援ができていた。「通級による指導」は、今年度より担当者が交代したが、巡回指導員のサポートもあり計画通り実施することができた。</li> <li>・特別支援教育支援員の配置も2年目を迎えた。該当生徒の校内の学校生活においては学習保障も達成でき、十二分な成果が得られた。</li> </ul>  |

|  |                               |  |  |   |  |
|--|-------------------------------|--|--|---|--|
|  |                               |  |  |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍により、県下全中学校への訪問は出来なかった代わりに、学校パンフレットの送付を行った。</li> <li>・企画会の実施により、学校が抱える喫緊の課題を主任主事部長が共有し、課題解決に向けた策を講じる機会を持つことができた(21回実施/2月13日現在)。</li> <li>・生徒の29%(昨年度38%)、保護者の19%(昨年23%)、職員の18%(昨年度20%)が、「働き改革」が進んでいない学校(職場)との回答であるが、その数値は年々低くなっている。職員の意識改革が年々進み、組織を挙げた改革(学校行事の精選、職員会議の削減、19時まで完全退庁日の設定等)が進んできた証ではないだろうか。</li> </ul> |
|  | 災害時及び生徒の健康管理等における危機管理体制を構築する。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急時の指示系統や連絡体制、地域と連携した防災マニュアルの再構築を図る。</li> </ul>                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者連絡システム(安心安全メール)、ホームページ活用等による連絡体制を強化する。</li> <li>・総合型コミュニティスクールへ完全移行する。</li> </ul>   | B | <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍により、「安全・安心メール」の送信回数が昨年度より遥かに増えた。ホームページと「安全・安心メール」システムを活用することで、緊急連絡や行事連絡(各種行事の事前連絡等)等、旬な情報を迅速に伝達することができた。</li> <li>・今年度より、防災型コミュニティ・スクールと学校評議員会を統合した形の総合型コミュニティ・スクールに完全移行した。しかしながら、コロナ禍により会議は一度も出来ず、書面による報告のみであった。次年度は総合型コミュニティ・スクールを機能させ、更に地域及び関係機関との連携を強化していきたい。</li> </ul>                                       |
|  | 学校情報を分かりやすい内容で定期的に発信する。       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページ掲載情報をタイムリーに更新する。(特に、新着情報)</li> </ul>                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページのシステムを職員に周知し、各行事等の情報発信を学科毎に更新する。</li> </ul>  | B | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教務主任、農場長、情報担当者、学科主任が中心となり、学校行事を始め、各科の学習の様子、生徒の部活動での活躍、緊急連絡等の情報発信ができた。発信されたタイムリーな情報や話題が中学生の目にとまり、生徒募集の一因になることを職員間で共有することができた。</li> </ul>  |
|  | 業務改善、働き方改革を推進する。              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・主任主事部長の意識改革を促し、トップダウンではなくボトムアップも意識しながら、業務改善、働き方改革を実現する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝会の実施、週2回を定着する。</li> <li>・毎水曜日を19時までの完全退庁日とする。</li> <li>・年間超過勤務時間の平均を35時間以内とする。</li> <li>・主任主事部長を中心に業務改善に向けての取組を推進し、年度末反省にて改善されたと職員が体感する。</li> </ul> | A | <ul style="list-style-type: none"> <li>・勤務超過時間80時間以上の職員が、4月5名、5月2名、6月6名、7月4名、8月3名、9月3名、10月5名、11月3名、12月2名、1月2名であった。1月末時点で年間超過勤務時間の職員一人当たりの平均時間は35時間である。</li> <li>・コロナ感染防止対策による休校期間もあったため一概には言えないが、職員の意識は年々高まっていると感じる。年休取得に関しては、申請しやすい職場の環境作りが努めることができていた。</li> </ul>  |

|                  |  |                                   |  |   |   |  |
|------------------|--|-----------------------------------|--|---|---|--|
| 学<br>力<br>向<br>上 | 生徒一人ひとりを理解し、授業の工夫・改善と個別指導の徹底(授業のUD化)     | 生徒の学習意欲を高めもっと知りたくなる授業を展開する。       | <ul style="list-style-type: none"> <li>楽しく登校し「わかる・できる・もっと知りたくなる」を実感する授業を展開する。</li> <li>学びのUD化に努める。</li> <li>授業実施者がICTを駆使した授業展開ができる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>教育環境の工夫, ルールの明確化, 視覚的支援の充実を図る。</li> <li>ICT機器に関する職員研修を充実させる。</li> </ul>                    | B | <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の77%(昨年度74%)が興味関心を持てる授業を本校職員は展開していると答えている。授業のUD化は年々進んでいる。コロナ禍によるオンライン学習の導入により, 職員の授業のICT化に対する意識も高まった。研究授業等で職員の自己研鑽を更に図って行きたい。</li> <li>今年度から新学習指導要領実施に向けた対策主査を校内組織に位置づけた。コロナ禍ではあったが, 担当主査と教務部が中心となり実施に向けた校内研修や研究授業を通して, 職員が学び合う機会を設定することができた。次年度は社会に開かれた教育課程に即した評価案の完成に向けた取り組みを進めたい。</li> <li>「通級による指導」とリンクした授業のUD化の完成が迫られ, 継続的な課題として挙げられる。</li> <li>昨年度より, HR教室, 廊下階段, 農場における掲示教育は環境が整っていた。</li> </ul> |
|                  |  | 習熟度に合わせた授業を展開し, わかる喜びを感じる授業を実践する。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>習熟度別に授業内容を組立て, 「基礎学力」および「いきる力」を身につけさせる。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>欠点保持者及び希望する生徒等に対し, 学びなおしを行う場を設定する。</li> </ul>  | B | <ul style="list-style-type: none"> <li>数学については習熟度別学習を取り入れ授業を展開している。学び直しを根底に, 粘り強い指導が成果となって現れている。しかし, 基礎学力の低い生徒, サポートを要する生徒も多く, 引き続きわかる授業, 興味関心を高める授業の展開が必要となり, 職員のスキルアップが望まれる。</li> </ul>  |
|                  | 教師と生徒が一体となった授業(公開授業の実施, グループ学習の導入)を実施する。 | 生徒の興味関心を引き付ける授業の展開を行う。            | <ul style="list-style-type: none"> <li>学科・教科別に研究授業(アクティブラーニングを重視した授業, UD化を意識した授業の展開)による資質向上を図る。</li> </ul>                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>年間をとおして, 統一したテーマを元に, 各学科, 教科ごとに研究授業を実施し授業改善に生かす。</li> </ul>                                | A | <ul style="list-style-type: none"> <li>「授業のUD化」「授業におけるICTの活用」を年間テーマとして, 職員研修, 研究授業を実施した。研究授業の見学が出来ない職員のために, 授業実施者の授業を撮影し, 希望する職員に視聴させる取り組みを行った。</li> <li>「授業のUD化」「授業におけるICTの活用」のポイントを意識しながら, 授業に取組む職員が年々増えてきている。来年度も引き続き, 授業改善に関する取り組みを進めていきたい。</li> </ul>   |
|                  |  |                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>授業の公開による教師の授業力及び探究心の向上を図る。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>教員相互の「学び合い期間」を設定し, 授業見学と授業評価を実施する。</li> <li>公開授業週間を行い, 見学者等に率直な意見を求め, 授業改善に生かす。</li> </ul> | B | <ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍により, 公開授業週間, オープンスクールを実施出来なかったが, 12月9日から1月22日まで, 校内学び合い期間を設定した。経験者研修受講対象職員に研究授業(ICTを活用)の動画撮影を依頼し, 他の職員が研究授業を視聴できるようにした。ICT機器を活用した授業作りの裾野を広げる取り組みであり, 職員同士の意見交換を行う機会にもなった。次年度のオープンスクールでは, 多くの授業がICT機器を活用したものになるように, 職員の意識及び技術の向上に努めたい。</li> </ul>  |

|                                   |                              |                                |                                       |   |  |
|-----------------------------------|------------------------------|--------------------------------|---------------------------------------|---|--|
| (キ<br>進<br>路<br>指<br>導<br>教<br>育) | キャリア教育推進のため、進路指導力の向上に取り組む。   | 農業自営者育成を主としたキャリア教育を学年に応じて実践する。 | ・先進農家視察、現場実習等とおして職業意識の高揚を図る。          | ・農業実習等による体験学習の充実を図る<br>・現場実習をおして進路意識の高揚を図る。   | B<br>・コロナ禍により、現場実習、インターンシップを実施することが出来なかった。その分、農業部職員が一丸となって、生徒の達成感、充実感を満たす授業の実施に努めた。結果として、今年度も例年通り、多くの生徒が本校で学んだ知識を活かすことが出来る進路を選んでくれた。次年度は、現場実習、インターンシップ、先進地視察研修が全学科で実施できるように、早めに準備に取りかかりたい。                                 |
|                                   |                              | キャリア教育の充実に向けた職員の指導力向上を目指す。     | ・校内研修や農家、企業等の訪問を通じて進路指導力の向上を図る。       | ・進路情報及び企業訪問等による企業情報の共有化と、指導の統一を図る研修を学年会や職員研修の中で行う。  | A<br>・コロナ禍により、例年のような企業訪問はできなかったが、キャリアサポーターによる電話での聞き取りにより、今まで以上に多くの情報を得ることができた。職員の指導力向上に繋がる直接的な取り組みは出来なかったが、進路指導部、3年部、キャリアサポーターの弛まない努力が3年生の『夢の実現』に繋がったことは言うまでもない。関係職員の地道な努力を評価したい。  |
|                                   | 早期の進路目標設定とその達成に向けた進路指導に取り組む。 | 生徒の進路意識を高めるための実態に即した取り組みを行う。   | ・講演会、進路講話等の進路学習をおして、進路目標設定への意識付けを行う。  | ・進路講話を実施するとともに、校外での進路相談会へも積極的に参加させる。<br>・学年毎に定期的に進路希望調査及び個人面談等を実施する。                        | A<br>・3年部職員と進路指導部の朝の連絡会を週に2回進路指導室で行い、3年部職員と進路指導部の連携を強化することが出来た。<br>・進路指導室に生徒用パソコンを導入していただき、Web面接もスムーズに行うことが出来た。<br>・進路指導部と3学年職員との共通理解のもと、生徒の適性を見極めることで、受験企業とのマッチングを図ることが出来たと考える。就職希望者は1回目の応募での内定率は84.5%であった。(昨年度72.7%)     |
|                                   |                              | 生徒や保護者の思いを十分に受け止めた進路指導を行う。     | ・3年間を見通した進路指導を実施し、生徒の進路希望100%達成を実現する。 | ・学校ホームページを活用し保護者、生徒に対して進路に関する情報提供を行う。<br>・面接指導の実施方法を検討、工夫し、より実践的な内容の指導を行う。保護者による進路先訪問を実施する。 | B<br>・生徒の83%(昨年度75%)、保護者の87%(昨年度87%)が本校職員は生徒に適切な進路指導を行っている。職員も90%の職員が自信を持っての確かな進路指導を行っているとの回答があった。<br>・今年は生徒自ら行動することを目的とし、全職員による一斉の面接指導を止めた。しかし、依然としてクラス間や生徒間で意識の差はあるようだ。<br>・今年度は、育友会保護者役員による進路先訪問研修が出来なかったが、次年度は必ず実施したい。 |

|      |                          |                                  |   |   |   |  |
|------|--------------------------|----------------------------------|---|---|---|--|
| 生徒指導 | 豊かな心を育む指導の実践に取り組む。       | 生徒会、農業クラブを中心とした自主的活動による活性化を図る。   | ・生徒会、農業クラブを中心とした生徒の自主活動や部活動、ボランティア・各種委員会活動の促進を図る。                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒企画による各種行事や委員会活動をととした自治活動力の育成を図る。</li> <li>・ボランティア活動の推進を図り、社会に貢献する。</li> <li>・部活動活性化に努め、加入率向上を図る。</li> </ul>   | B | <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍による学校行事の中止により、生徒会、農業クラブの活躍の場が制限されてしまった。しかし、放送による実施、紙面による案内、学年集会時での実施など、出来る範囲でどのように目的を達成できるのか、生徒達の工夫が随所に見られた。生徒会、農業クラブは、来年度の体育大会、文化祭が例年通り企画、運営が出来るのか不安なようだが、菊農生ならやり遂げるに違いない。</li> <li>・今年度は、多くの学校行事が削減されたが、本校の学校行事は、生徒の75% (昨年度71%)、保護者の87% (昨年度90%)、職員の80% (昨年度93%) が生徒の自信の育成に繋がっているとの評価であった。</li> </ul>   |
|      |                          | 農業教育における動植物の育成管理をとおして豊かな心の醸成を図る。 | ・仲間との協力及び動植物の育成管理をとおして責任感を育成すると共に、他者や周囲に配慮することのできる心の醸成を図る。                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・仲間と協力して作業をすることで責任と周囲への思いやりの心を育てる。</li> <li>・動植物との触れ合いをとおして、命を大切にす豊かな心と、互いに協力、互いを尊重する心を育成する。</li> </ul>  | A | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度も生徒の多くが農業実習に真摯に取り組むことができており、動植物の管理をとおして命の大切さや自他を認め合い協同する生徒の育成に繋がった。結果、何気ない言動によりトラブルに発展したケースは減少した。今後も日々の教育活動をとおしてソーシャルスキルトレーニングを実施し、コミュニケーション能力を高めていく指導を行って行きたい。</li> </ul>  |
|      | 規範意識を育てると共に安全教育の徹底に取り組む。 | 基本的な生活習慣の確立と規則やマナーを遵守する意識を高める。   | ・気持ち良い挨拶、制服の着こなし、時間を守る、貴重品の自己管理等、社会人となるための基礎基本を徹底指導する。                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝の登校指導や定期的な整容検査の実施により、整容指導の徹底を図る。</li> <li>・整容面（服装・頭髪）について全体に周知し、全職員で統一した指導を図る。</li> <li>・貴重品袋を活用した盗難防止に努めると共に、貴重品の自己管理の徹底を啓発する。</li> <li>・生徒、保護者向けのSNS教育を実施し、トラブルの未然防止に努める。</li> </ul> | A | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の約87% (昨年度80%)、保護者の86% (昨年度84%) が基本的な生活習慣は概ね身に付いているとの回答であった。職員及び生徒による登校指導（毎朝）での声かけ、月に一度実施される一斉登校指導、定期的な整容検査、朝読書の実施（毎朝）、校内巡回等により、生徒は比較的落ち着いた学校生活を送っている。</li> <li>・今年度は整容検査を7回、服装指導強化週間を学期に1回実施した。学年職員を中心に全職員で取り組んでいるが、社会の流れから見て、校則や生徒指導について見直す時期に来ていることを感じる。本校でも前向きに菊農での生徒指導の在り方を模索していかなければならないと考えている。</li> <li>・今年度、盗難事案は殆どなかった。職員の生徒への啓発、生徒の危機管理意識の向上に感謝したい。</li> </ul> |
|      |                          | 交通事故や犯罪等に遭わないための意識の高揚を図る。        | ・交通安全教育指定校の実施計画に則り、交通ルール遵守や交通事故防止等をはじめとする安全教育指導を徹底する。併せて、交通安全教育指定校2年目として、研究成果を発信する。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・防犯対策として二重ロック点検・施錠指導や交通安全教育を実施する。</li> <li>・交通安全の推進に向けて、外部講師による交通講話、学期ごとのLHR及び交通アンケート等を実施し、研究発表会を成功させる。</li> </ul>   | A | <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月21日前後に全職員での一斉登校指導を実施し、その際、交通委員が自転車の二重ロック点検も行っている。また、昨年度から2年間、交通安全教育研究指定校事業を受けているため、一斉登校指導後の放送による全行集会にて指定校事業に関する交通安全教育を実施し、生徒の自助力・共助力の向上に繋げる取組みができていた。生徒・職員による近隣小学校の下校支援活動、交通LHR等、多くの職員・生徒の協力により当事業は終わりを迎える。2年間の取り組みを来年度以降どのように繋げていくのが課題である。</li> </ul>   |

|         |                          |   |  |  |   |
|---------|--------------------------|---|--|--|---|
| 人権教育の推進 | 豊かな人権感覚を身に付けた生徒の育成に取り組む。 | 相手の立場や心情を理解することのできる生徒の育成を図る。                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・人権感覚を高め、心豊かな生徒の育成に取り組む。</li> </ul>                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・LHRをはじめ様々な授業をとおして人権感覚を育む。</li> <li>・人権講話や人権講演、平和登校日など、機会を捉えて人権の大切さを伝える。</li> </ul>                           | <p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の69% (昨年度63%)、保護者の85% (昨年度79%)、職員の90% (昨年度90%)が本校の人権教育は概ね充実しており、相手の立場になって行動できる生徒の育成に繋がっていると回答している。これは、人権教育主任をリーダーとした本校の人権教育指導体制が確立されているからであろう。</li> <li>・今年度の文化祭における各クラスの人権壁新聞の作成等、人権委員を中心に生徒の人権意識も向上してきた。</li> <li>・LGBTQについて職員研修を行った。その後、2学年のLHRで同様のテーマについて取り上げた。職員・生徒共に性的マイノリティへの理解は深まったと感じる。</li> <li>・次年度は、昨年同様人権教育講演会、人権に関する校外研修への全職員の参加、夏休み平和教育等により、学校全体の人権意識を更に高めて行きたい。</li> </ul>                                       |
|         | 豊かな人権感覚を身に付けた生徒の育成に取り組む。 | 指導する職員の人権感覚を豊かにする研修を実施する。                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎学期に配慮を要する生徒等に関する研修を実施することで生徒に対する人権感覚を磨く。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・人権教育推進委員会を定期的に行い、共通認識と共通実践を図る。</li> <li>・学期に1～2回の生徒理解研修を実施し、全職員で課題を抱える生徒の状況を把握し、共通理解を図る。</li> </ul>          | <p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初の生徒理解研修を実施し、全職員で配慮を要する生徒や、課題を抱えさせられた生徒の状況把握をすることで生徒理解の一助とすることが出来た。しかし、配慮を要する生徒の増加に伴い、職員間の共通認識が十分とは言えないケースも見られた。</li> <li>・毎月6限目(週1回)に実施される生徒理解・特別支援教育推進委員会特別なニーズのある生徒や生活面・学習面で心配な生徒について、各学年からの情報を早期に把握し共有することに努めた。守秘義務の点から、全職員での情報共有が難しいケースもあるが、教科担当者やケース会議を必要に応じて随時開き、生徒の実態を把握しながら支援に当たった。SCやSSW、福祉、行政や医療機関とも必要に応じて連携し、個別の対応を行った。</li> <li>・人権教育推進委員会は、昨年度より実施回数を増やすことができた。や新型コロナ差別等、我が国が直面している人権問題に迅速に対応することが出来た。</li> </ul> |
|         | 命を大切にすることの育成に取り組む。       | 動植物に関わることで命の大切さを意識し、いじめのない学校づくりに取り組む生徒を育てる。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の学びの中で命の大切さを知り、自分や他者の命を大切にすることのできる生徒を育てる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・命を育て、命をいただくことで生かされていることを実習等の授業で学ぶ。</li> <li>・人権委員会を中心に「いじめ撲滅宣言」の読み上げ、クラス掲示を行い、感謝の心と他者を認める心を意識させる。</li> </ul> | <p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業(人権教育LHR、一斉HR、保健、専門教科)をとおして、命の大切さ、命を育てることの尊さ、他者の個性を尊重することの大切さを学ぶことができた。</li> <li>・放送による全校集会にて、人権委員長が「いじめ撲滅宣言」を読み上げ啓発を図ることで、お互いを認める心を意識することができた。</li> </ul>   |



|         |                                      |                                     |  |   |   |   |
|---------|--------------------------------------|-------------------------------------|--|---|---|---|
| いじめの防止等 | 命を大切にす、いじめをしない、いじめ防止に取り組む生徒の育成に取り組む。 | 命の大切さを理解し、命を大切にすることができる生徒の育成に取り組む。  | ・日常の学びの中で命の大切さを知り、自分や他者の命を大切にすることができる生徒を育てる。 | ・LHRや日常の授業・実習で、命を育て、命をいただくことで生かされていることを学ぶ。  | A | ・コロナ禍により、性教育に関する外部講師による講演会を実施することが出来なかった。<br>・専門教科の授業では、各科で特色ある教育が実施されており、多くの生徒がやりがいを感じている。日々の学習をとおして日常生活における自他の尊厳に繋げられるよう更に授業の深化を図りたい。   |
|         |                                      | いじめ防止に積極的に取り組むことのできる生徒を育成する。        | ・相手の立場を考え、命を大切に考えることができる生徒の育成を図る。            | ・LHR等で人権問題を取り上げ、いじめや差別をなくす生徒の育成と正しい言動ができる生徒の指導を行う。<br>・日頃から担任を中心に個別面談の機会を設けるなど、生徒の日頃の悩みを把握し、いじめの未然防止、早期の発見に努める。 | B | ・コロナ禍ではあったが、人権教育LHRを大幅に減少することなく実施することができた。また、学校生活の様々な場面で人権意識の向上に努めており、生徒の人権感覚を高めることができた。<br>・各学期で実施する心のアンケート、それに基づいた個人面談を丁寧に実施し、いじめの防止と早期解決に向けた取り組みを組織的に行うことができた。結果として、今年度も生徒の69%(昨年度66%)、保護者の85%(昨年度79%)が本校は体罰やいじめの防止をはじめ、人権教育の姿勢を基本に生徒への対応が概ね行われているとの評価を受けた。<br>・減少傾向ではあるもののSNSによるトラブル事案は未だに本校でも発生しているため、保護者と連携し我慢強く丁寧に指導を続けていく必要がある。併せて、年に1回は職員もしくは外部講師によるSNSトラブル防止教育を実施したい。 |
| 専門教育    | 地域と連携した農業教育の推進に取り組む。                 | 地域と連携した農業教育の推進に取り組む、農業経営者を育成する。     | ・就農教育の推進と地域に開かれた農場の展開に努める。                   | ・農場を地域に開かれた学校の拠点とし、農業の新しい技術や情報を校外に積極的に発信していく。   | A | ・コロナ禍により、当初予定していた事業を行うことが出来なかった。次年度は菊池市高校魅力化事業(中学校交流学习)、JAまんまキッズ等をとおして、本校の教育活動を発信したい。<br>・県版GAPの認証を受けた作物部門では、特別栽培米を軸として販売を進め、購入者の安全安心のイメージ化を図ることが出来た。(野菜部門は2月に調査があった。)<br>・昨年からは始めた日仏農業連携事業に作物専攻、グリーンライフ専攻の取り組みが本格的に始まり、フランスの農業専門学校との国際交流で生徒の学ぶ機会を増やすことができた。<br>・コロナ禍により、生産物の販売にも工夫を凝らし、コロナ感染対策を徹底したドライブスルー方式でブドウを販売する等、臨機応変に組織で対応することができた。                                     |
|         |                                      | 農業教育により自信と誇りを持った農業経営者と関連産業従事者を育成する。 | ・農場を生徒の学習発表の場と位置づけ、農業教育に対する自信と誇りを育む。         | ・学習成果を積極的に発表し、身につけた専門性を将来活かす進路指導を実践していく。  | A | ・全国学校農業クラブ年次大会は中止となったが、リモートによる県大会では、プロジェクト発表Ⅲ類で優秀賞(農業と福祉で地域を活かす。～広がる共生社会～)、農業鑑定競技の部で最優秀賞(園芸の部、畜産の部)、優秀賞(農   |

|         |                       |  |   |   |   |  |
|---------|-----------------------|--|---|---|---|--|
|         |                       |  |   |   |   | <p>業の部1名, 畜産の部3名, 食品の部2名)を獲得した。<br/>         ・アグリマイスター認証(シルバー1名・食品化学科3年)や農業技術検定2級合格(畜産科学科3年)等は大きな成果である。<br/>         ・2年生には獣医学科等, 高い目標を持って学校生活を送っている生徒が複数名いる。コアな指導を各部署で行ってはいるが, 更に学科, 進路指導部, 学年が連携した指導体制の強化に努めたい。<br/>         ・来年度は, 蒼生会による出前授業を再び実施したい。</p>                        |
| 環境教育    | 環境保全活動や環境問題に積極的に取り組む。 | <p>学校版環境ISOに取り組むと共に, 農業を通して環境整備に意欲的に取り組む態度を育成する。</p> | <p>・環境にやさしい農業を実践し, 環境保全や環境問題への関心を高め, 意識的に取り組む態度を育てる。</p>                        | <p>・学校版ISOの認定校として, 校内外のクリーン活動を更に充実させる。<br/>         ・地域を含めた花いっぱい運動を展開する。</p>                                    | A | <p>・ISOの宣言項目を教室や職員室へ掲示し, 毎学期, 生徒職員で取組チェックを行った。その結果, ゴミの減量に努めますと答えた生徒が, R2:90%(R1:73%)と昨年度よりも遥かに増加した。その他の項目においても, 出来ているとの回答は昨年度より増加している。生徒の意識が定着していることが窺える。<br/>         ・今後は, 持続可能な開発目標(SDGs)についての学習を深め, 生徒・職員共に身の回りの環境美化から, 地域・社会が抱える環境問題まで幅広く考え行動することが出来るよう, 能力や態度の育成を図って行きたい。</p> |
|         |                       | <p>美しい学校づくりをテーマに環境美化活動に取り組む。</p>                     | <p>・環境美化活動を実践し, 美しい環境の中で豊かな感性を育む。</p>   | <p>・美化コンクールを実施する。<br/>         ・美化委員会を中心に学校周辺の美化活動を年5~6回行う。<br/>         ・ゴミの分別運動を実施する。</p>                     | B | <p>・毎学期, 校内外のクリーン活動を実施し, 環境美化への啓発に努めることができた。校内美化コンクールについては, 実施方法を次年度から見直すこととした。<br/>         ・花いっぱい運動は, 農業クラブを中心に全学科で積極的に取り組んだ。また, 昨年度より実施している菊池市高校魅力化事業における近隣中学への花壇作り交流は, 次年度に再開できればと考えている。</p>   |
| 保護者との連携 | 育友会との積極的な連携・協力に取り組む。  | <p>円滑な学校運営のために情報提供に努める。</p>                          | <p>・保護者へ学校行事や生徒の様子等の情報提供に努め, 本校への理解と協力を得る。</p>                                  | <p>・年2回の育友会会報作成等に協力し, 本校のPRに努める。<br/>         ・ホームページや安全安心メールを活用し育友会活動の状況や, 学校行事の周知徹底に努める。</p>                  | A | <p>・コロナ禍により, 多くの学校行事及び育友会行事が中止となったが, 育友会会報は2回(2月15日時点)発行することができた。次年度も育友会広報活動をとおして, 生徒の学習活動や各種行事, 育友会活動を発信して行きたい。<br/>         ・安全安心メールの活用は, 昨年度より更に発信回数を増やし充実させることができた。</p>  |
|         |                       | <p>PTA活動のさらなる活性化を図る。</p>                             | <p>・学校行事への保護者の出席率向上を図る。<br/>         ・ミニバレーや各種研修会など運営を工夫しながら, 楽しい育友会活動を目指す。</p> | <p>・早めの情報提供と, 欠席者については, 生徒を通じて資料を配布し, 情報の共有化を図る。<br/>         ・保護者が参加しやすいよう開催曜日や時間帯を工夫し, 多くの意見を取入れて活発化を目指す。</p> | B | <p>・コロナ禍により, 育友会総会は書面決議による実施としたが, 68%の返答があった。ミニバレー大会, 校内環境美化作業, 学校林整備, 定例登校指導等は出来なかったが, ロードレース大会での生徒への弁当の準備及び配布, 育友会会費の徴収4ヶ月分免除等は実施することが出来た。<br/>         ・本校の育友会活動は, 生徒の78%, 保護者の87%, 職員の89%が学校と連携を図り, 活動が活発であるとの回答であ</p>   |

|      |                          |                           |  |  |   |   |
|------|--------------------------|---------------------------|--|--|---|---|
|      |                          |                           |  |  |   | った。次年度は新執行部のもと、本校の育友会活動が更に魅力あるものにするため、企画立案について工夫を行いたい。  |
| 地域連携 | 学校運営協議会をとおり、地域と連携協力体制の確立 | 自主的に学び、考え、行動できる生徒の育成に努める。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の活動をとおりボランティア活動に参加するとともに、地域住民とのコミュニケーションを深める。</li> <li>防災教育の3原則である知識、技術、心を軸とし防災意識を高める。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の美化作業等に積極的に参加する。</li> <li>学校行事、農産物販売情報等をホームページ、広報誌等で情報発信し、地域住民の来校のきっかけとする。</li> <li>教科、集会等で各災害の発生メカニズムと対応策を理解する。</li> </ul> | B | <ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍により、寮生を中心とした近隣自治会の美化活動、餅つき大会等に参加できなかった。また、太鼓部は年間として菊池市内の各種イベント、祭りに多数出演していたが、今年はイベントが皆無であり交流の機会が絶たれた。しかし、いつでも菊池市民との交流が出来るように準備は怠ってはいない。次年度に期待したい。</li> <li>今年度も授業中に地震発生時の安全行動（シェイクアウト）訓練を2回実施した。生徒の意識も年々高まり、意義ある訓練であった。来年度も更に充実させたい。</li> <li>交通安全教育研究指定校事業における取り組みの一つとして、近隣小学校（3校）の下校支援活動を毎週木曜日に実施した。各クラスの交通委員以外に、学校再開の6月から1月末までに延べ123名の生徒がボランティアとして参加した。</li> </ul> |
|      |                          | 災害時の連携体制や防災システムの構築に取り組む。  | <ul style="list-style-type: none"> <li>防災型コミュニティスクールの完成年度とし、総合型コミュニティスクールへの移行を行う。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>防災マニュアルの共有、合同防災訓練を計画し実施する。</li> <li>地域と協同した防災訓練を実施する（事前・事後の打合せ含）。</li> <li>防災型コミュニティスクールから総合型コミュニティスクールへの移行を完成させる。</li> </ul> | A | <ul style="list-style-type: none"> <li>地域、行政機関からの意見・アドバイスをいただきながら、地域との協力連携を確認することが出来た。</li> <li>防災関係のLHR及び職員研修を実施し、災害発生時の避難経路・場所等の説明を行った。</li> <li>地域合同での防災避難訓練は、菊池市危機管理対策課に講師派遣を依頼し、放送による実施とした。地域住民にも参加を呼びかけ、区長さん他6名の参加をいただいた。来年度は総合型コミュニティスクールにおける防災教育、地域防災連携について関係機関と協議し確固となるものを構築したい。</li> </ul>  |

#### 4 学校関係者評価

- 今年度は全ての面において厳しい状況でなかったかと思われる。学校現場はコロナ感染拡大防止対策等に苦慮し、生徒達の活躍の場をどのように作るか、大変悩まれたことであろう。
- 新しい様式による改革も増えてきた中で、新しい発想による新たな学校作りが必要な時期かもしれない。今後も運営協議委員として協力して行きたい。
- コロナ禍で大変な毎日であったと推察する。そのような中でも、命の教育（管理実習を通して）を当たり前のように推進されていた菊農職員に敬意を表したい。
- 学校評価の結果を見る限り、昨年度よりも生徒・保護者・職員の認知に向上するのは、先生方のご努力の賜であろう。
- 校内におけるトラブル、犯罪行為等は、認知後は出来るだけ早く相談していただき、早期に解決を図れるよう協力して行きたい。
- 新型コロナウイルス感染拡大の中で、授業時間の大幅な減少、農場の維持管理に先生方は苦慮されたのではないだろうか。次年度の準備を十分に行って貰いたい。
- 各学科で様々な取り組みをされていますが、今以上に発信をして貰いたい。生徒のやる気、生徒募集に繋がるのではないのでしょうか。
- 令和2年度はコロナで始まりコロナで終わった1年でした。その様な中、入学式・卒業式を縮小し、また、各種行事の中止・変更等を余儀なくされた学校運営だったと思われます。

しかし、校長先生を始め先生方の努力により後半は大きな混乱もなく、学校運営がなされた事にお礼を申し上げます。

- ・来年度もコロナ終息は厳しいかと思えます。今後は新しい生活様式を取り入れながら、上手に付き合っていくしかありません。本校の教育目標の創造と実践に向けた先生方の総力を結集して取り組んでください。私も微力ながら応援致します。
- ・学校運営、教育活動について、難しい年度であったと思えます。

## 5 総合評価

### (1) 学力向上及び授業改革

- ・実用英語技能検定1級に畜産科学科2年女子が合格した。快挙であるが、本人の日々の努力の賜である。指導に当たった関係職員に感謝したい。(準2級には、園芸科3年女子が2名、3年畜産科学科女子が1名合格)
- ・中学校からの不登校や支援が必要な生徒も多く、休校等の影響もありスムーズに年度当初のスタートができない生徒も見られた。しかし、中学とは異なり欠席もなく登校できるようになった生徒も多くおり、学習面でも成績が向上している。
- ・夏休み中の家庭訪問は、コロナ禍であったが担任、保護者の協力を得て実施することができた。生徒の家庭環境を把握することができ良かった。担任、副担任が教室の環境整備等に工夫をして取り組んだ結果、学習環境が整備されており、生徒の掃除に取り組む姿は良好で、成績面では、昨年度の欠点教科の延べ数から比べると大きく改善された。
- ・4、5月の休業日により、1学期「学びのUD化」における研究授業はできなかったが、2・3学期を通じて計画していた「ICT活用」をテーマに研究授業は実施できた。また、昨年に比べて研究授業を参観される先生方が増えている。(全職員の3割程度であった)生徒の興味関心を引く授業を展開し、生徒からは分かりやすいとの声も多数聞かれている。生徒が、菊農の先生は分かりやすく興味関心が持てる授業を実施し授業改善に努めているとの評価が、今年度は77%と昨年度より3%向上した。私の授業は生徒の興味関心を引くものであるとの自己評価も、88%と昨年度より6%アップしている。本校の授業改革は着実に進んでいるのではないだろうか。
- ・新教育課程編成に向けて、今年度中に各学科、各教科等で評価案を作成し、8月には教育センター指導主事による職員研修を計画していたが中止とした。(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため)その代替として、本校研究主査による校内研修を行う等、準備を進めることはできた。
- ・生徒募集の工夫については、この2年間実施している県下全中学校を訪問することはできなかったが、J A菊池の広報誌および菊池市の広報誌に掲載されている本校の紹介部分を関連中学校に配付する、ホームページの更新をタイムリーに行う等を行う事ができた。
- ・「授業」に関して、昨年度は授業妨害・遅刻・無断欠課等、授業が成立しないケースが多々見られたが、本年度は大きく改善された。また、クラスの授業担当者会を設けて情報を共有し、ケースによって授業巡回を行った。
- ・行事の見直しについては、今年度は臨時休業もあり、必然的に行事等の見直しや授業時数の確保を行った。
- ・朝読書は定着できつつある。8:25のチャイムで準備する生徒も多く、各クラスでの取り組み具合の差があることが感じられるが、「みんなが集中する時間が増えるため良いと思う。朝から本を読むことによって、落ち着く時間になるから良い取り組みだと思う。もっとたくさん読書の時間を増やしてほしい」等、生徒の評価は高かった。
- ・教務支援システムの健全な運用は、全職員の協力のおかげで昨年度より成績・出欠入力等の期日厳守をほぼ守っていただき、スムーズな教育支援システムの運用ができた。
- ・担い手育成に関しては、取り組みが制限されながらも農場関連の取り組み(計画)が実践された。(各種講習会・研修会)
- ・HPの活用により休校期間中も教育活動の一部を紹介、報道等による学校紹介も例年になく実施できた。研修入寮(コロナ禍により今年度は未実施)に変わる農場管理も先生方の力で支障なく消化できた。
- ・限られた時間ではあったが、資格取得に向けた取り組みがなされ情報関係・農業技術検定関係については多くの生徒が受検の機会を得ることができた。「スマート農業」に関する対策が取られ大型機械(直進無人運転トラクター)やドローンの導入が現実化し、地域研修の核となる体制が整えられた。
- ・日仏農業教育連携(アクションプラン)交流がよいよ実施段階に来ている。今年は各高校間でオンラインによる交流がスタートし成果を上げることができた。
- ・農業部教職員の日々の教育実践により、実践で安全で安心な学習環境作りが可能となった。

## (2) 健全な心と身体を育む生徒指導と特別支援教育

- ・今年度は全校集会や学校行事で全校生徒が集まる機会がなく、生徒が活躍する場、成果を称えられる場を設けることができなかった。生徒会活動としては、放送による実施（生徒総会等）、紙面による案内（部活動紹介等）学年集会での実施（生徒会オリエンテーション等）と、できる範囲でどのように目的を達成するか工夫してきた。役員の生徒たちも、日程や内容の変更に臨機応変に対応してくれた。しかし、十分な取り組みとならなかった部分、周知できなかった部分もあり、来年度にどう影響するか心配である。
- ・整容指導等、生徒に対して注意・指導を行った後（指導内容により異なるが）、指導内容の説明、今後の指導の方針や保護者に協力を願いたい事等を、生徒が保護者に伝えるより先に保護者と情報を共有する事で事後指導をスムーズに行う事ができた。また、逆に保護者との連絡がすぐに取れなかったことで、改善に時間を要することになる事例もあった。
- ・交通安全教育の指定校事業も2年目となり、2月18日に無事にリモートによる研究発表を実施する事ができた。小学生の下校支援活動や登校指導、交通教育LHR等はたくさんの先生方の協力があったからこそ取り組めたと大変感謝している。また、交通委員の生徒は例年以上にいろいろな場面で活躍してくれた。下校支援活動には延べ100名以上の生徒がボランティアで参加してくれた。
- ・遅刻・欠席の指導に関しては、欠席時の家庭への連絡を担当が徹底したお陰で、昨年度に比べれば出席率は向上したが、遅刻については、遅刻指導の対象となる生徒が毎週いた。
- ・盗難は昨年度の課題の1つであったが、本年度は盗難件数0である。また、特別指導の件数も大きく減少した。
- ・週1回の生徒理解特別支援教育推進委員会で、特別なニーズのある生徒や生活面・学習面で心配な生徒について、各学年からの情報を早期に把握し、共有することに努めた。守秘義務の点から全職員での情報共有が難しいケースもあるが、特に単位認定等に関わる点については、推進委員会での情報共有と審議を慎重に行いながら支援方針を慎重に検討した。教科担当者会やケース会議を必要に応じて随時に関き、生徒の実態を把握しながら支援にあたった。SCやSSW、福祉、行政や医療機関とも必要に応じた連携を通して、個別の対応を行った。
- ・支援計画作成に係る各クラスの教科担当者会を開くと、多忙な中に多くの先生方の参加を得られるようになり、職員間の特別支援教育に対する理解が深まっていることが窺えた。
- ・支援計画の作成率も年々改善し、保護者の同意ありの生徒については100%作成できた。進路先への引継ぎに関しては、今後もその有用性を丁寧に説明し、進学・就職先での環境の変化に際して卒業生がスムーズに適応できるような手立てを講じていき、書面での引継ぎに前向きではない生徒・保護者についても、生徒の自己実現のため、自分の特性を理解し、必要に応じて自ら支援を求めていける力の育成にも注力していきたい。
- ・特別支援教育支援員の活用について、今年度は、入学前から教育相談や合理的配慮の要望があった生徒について支援員を配置していただき、「学習・生活サポーター」として、生徒の日々の安定した学校生活を大いにサポートしてもらうことができた。担任、教科担当、特別支援教育支援員、通級指導担当者、コーディネーターで日常的に情報を共有し支援に当たった。支援員の日々のきめ細かな声かけで、生徒との間に信頼関係が構築され、日ごろの会話を通して、主な支援対象生徒はもちろん、クラスメイトや他学級の生徒の困り感にもいち早く気づくことができ、早い段階で対応や支援にあたるのが可能となった。支援員のサポートにより、日常的なちょっとした不安やストレス反応にきめ細かくに対応できるので、大きなパニックにつながる場面は予防できたと思う。また、支援員には、保護者との面談や関係機関とのケース会議にも出席してもらい、チームとして生徒支援に当たった。
- ・「通級による指導」の本格導入が今年で3年目を迎えた。これまでに延べ10名程度の生徒が履修しており、多くの生徒たちが楽しみながら授業を受講し、安心して自分を出せる場所となっている。また、学校としても授業としての位置付けが明確になっており、菊農スタイルの自立活動として、本校のライフスキルが構築されつつある。今年度は、4名の3年生に実施した。それぞれの生徒ごとに担任、学年主任、コーディネーター等でアセスメント会議を行い、指導目標を立てることができた。また、各場面で生徒の情報共有を行い、生徒に合わせた指導を展開することができた。
- ・文化発表や各種行事では人権委員が中心となって壁新聞の作成、展示を行い校内での人権啓発活動に取り組んだ。昨年度までの反省を踏まえ、壁新聞の展示場所・期間について検討し、変更したことで投票数が伸び人権啓発へ繋がった。
- ・LGBTQについて職員研修を行い、その後2学年の人権LHRで同様のテーマについて取りあげた。外部講師を招いての研修効果もあり、職員・生徒ともに性的マイノリティへの理解が深まったと感じている。
- ・長欠気味の生徒や問題を抱えている生徒に関しては、生徒理解特別支援教育推進委員会や学年会等で情報の共有を行うとともに、学年主任や担任、各科と連携しながら各研修等で繋がった中学校の人権教育主任とも情報交換を行うことで、チームとして問題に対処することができた。
- ・人権感覚向上を目的とした校内研修をコロナ禍はあったが3回実施できた。部落問題に関するレポート研修、法令について、多様性の理解促進のために講師を招きLGBTQについて研修を行うことで、それぞれの研修テーマに関して職員間で話題になっていたことは深い学びへ繋がった。
- ・就職差別に遭わないための取り組みとして、全国統一応募用紙の趣旨や「言わない」「書かない」「提出しない」を徹底させるために、担任、学年主任、進路指導主事と連携し、2度

のLHRで入念に学習を行った。成果として、学級担任や進路指導部職員に受験申込書類の相談をする力や、違反質問に対して適切な受け答えをする力を身に付けさせることができたので、今後も進路保障のために続けていかねばならない。

- ・人権教育推進委員会は、昨年度より実施することができLGBTQや新型コロナ差別など現在本校が直面する人権問題に迅速に対応できたことはよかった。また、職員研修で関係法令についても取りあげることができたことは、人権意識の向上に繋がった。
- ・コミュニケーション力の向上に関しては、新型コロナ感染症の影響で学年集会在なかなか実施できず、体育祭・インターンシップ・修学旅行などが中止となり、コミュニケーション力及び職業観の育成に不安が残った。特に2年生の修学旅行については代替できる行事を企画したいと考えている。
- ・キャリアサポーターとの連携や進路と各担任との進路検討会を行い、生徒一人ひとりの進路決定に向けてサポート体制を強めることができた。
- ・部活動の各種大会やコンクール・体育大会・菊農フェスタ・農業クラブの各種大会等、多くの活躍の場が中止・縮小となり、目標をもつことや心の充実感が得にくい1年ではあったが、最後に生徒達が企画運営した3年生のクラスマッチが実施できて本当に良かった。
- ・3年生はクラステーマLHRの確保が実現し、月1回の学年集会和クラス活動といった内容の取組みができた。タイムリーなテーマについて学年全体で考えることができ、効果的だった。保護者会が開けない状況の中、安心安全メールの活用で保護者への確認や連絡を行うことができた。

### (3) 夢の実現に向けて

- ・舎監32名共通理解のもと、生徒の生活状況および朝・夜2回の検温、健康状況について引き継ぎを行い、ほとんどの生徒は日課を守り基本的な寮生活を送ることができた。今年度は新型コロナ対策で一部屋4名収容を2名とした。舎監の先生方の指導で、寮内でのマスクの着用、食事前の手指消毒等を徹底し、寮生の新型コロナウイルス感染を防止できた。
- ・寮生の健康管理や問題行動に関しては、担任・学年・学科・保護者と連携を行い指導ができた。1年を通して研修入寮が実施できず、寮教育の見通しが立たない状況ではあるが、寮教育は本校教育の根幹でもある。長期寮生の生活及び健康状況等の引き継ぎ業務を正確に行い、研修入寮の再開を視野に準備に当たり、生徒の夢の実現に向けて今後も建設的な寮運営を進めていきたい。
- ・進路室に生徒用パソコンを導入しWeb面接をスムーズに行うことができた。
- ・進路指導部と3学年担任団との共通理解のもと、生徒の適性を見極めることで受験企業とのマッチングを図ることができた。1回目の応募での内定率は84.5%であった。(昨年度は72.7%) ※就職希望者の就職決定率100% (3月1日現在)
- ・四年制大学希望者には進学担当が幾度も面談を行い、受験方法の確認や試験対策等についてアドバイスを行った。また、複数回模擬試験を受験し、その内容や結果についてもアドバイスをすることができた。
- ・今年度も鹿児島大学農学部へ推薦入試にて合格者を出すことができた。(3年連続) ※進学希望者の進学決定率98% (3月1日現在)
- ・週1回の進路部会が定着し、情報共有の徹底と各学年への情報提供もできていた。今年度は、朝の3年担任会を週2回進路室で行い情報共有などの連携ができたことは良かった。
- ・例年、火の国の翼(アジア)、未来の畜産女子育成プロジェクト(ニュージーランド)、FFT研修(タイ王国)に参加することで、海外の農業について学ぶと共に、異文化に触れ、様々な経験を積む機会であったが、今年度はコロナ禍により中止となった。しかし、日仏農業教育連携アクションプランは確実に歩みを始めている。今後も、各学科のHPやマスメディア、様々な活動により中学生・保護者・地域へのPRを行い、本校の魅力を積極的に伝えることで志願者増にも繋げていきたい。
- ・我慢の1年ではあったが、生徒81%(昨年度76%)、保護者94%(昨年度91%)が本校に入学して良かった、入学させて良かったとの高い評価をいただいた。生徒の夢の実現の為に、引き続き、気を引き締めて生徒の指導に当たっていきたい。

### (4) その他

- ・入学式や終業式等、コロナ禍で例年と違う形式になったが、臨機応変に対応し無事に終えることができた。育友会総会は書面決議で実施し返答が68%程度であった。その他の育友会行事はコロナ禍で殆ど実施できなかった。広報紙は、4月に「新転入者紹介」、12月に「農産物販売会等」、3月に「卒業式等」(卒業生には卒業式後に郵送)を発行した。
- ・今年度は感染症予防のため「合同防災避難訓練」の代わりに、菊地市所による、「全校防災学習講話」を実施した。校内放送での実施だったが、分かりやすい解説で生徒達も真剣に聞いていた。地域住民の参加は区長さんを含めて6名であった。

- ・学校日誌作成に当たっては、出欠黒板の記入は担任の協力もあり、生徒が責任を持って記入するようになった。ゆうネット上の朝会連絡事項は、長期間掲載が整理され、日誌記載量も多少減少した。
- ・会議室等の内装改修、ごみ置場改修、トラクター演習場の白線改修等を施行することが出来た。今年度予算面に対応できていない箇所については、来年度優先順位の高いものから必要な場合は予算の増額申請を行い対応していきたい。
- ・新型コロナウイルス感染症対策に必要な関係物品の購入、改修を行うことが出来た。引き続き必要な対策を継続していきたい。
- ・行事等の直前に必要な物品の購入や修繕の相談が寄せられ緊急に対応する必要があったため、事務部内外の情報共有を密にしていきたい。
- ・予算執行や事務処理について起案者以外2名以上の複数人で組織的にチェックを行う事により、ミスを軽減することが出来た。
- ・奨学のための給付金についてパンフレット及び学校安心安全メールを利用して周知を行い、さらに個別に電話連絡をすることで、対象となる家庭からの申請につなげることができた。
- ・生徒へのアンケート調査の結果、ISO宣言項目について継続して取り組んできたことで、生徒の意識も定着してきていることがわかった。また、これまでの課題だった節電に関する宣言項目については、2年目に入り意識の向上が高まってきている。
- ・職員の本館校舎と農場間の移動方法についての課題があったが、今年度は自転車の利用が促進された。環境に配慮した取り組みがなされていた。
- ・JA菊池の協力で、毎月1ページ分広報誌に掲載していただいた。菊池市広報誌には、菊池市内3校の輪番で掲載をさせていただいた。

## 6 次年度への課題・改善方策

- ・日仏農業教育連携アクションプランを始め、地域との交流等、生徒の活躍を職員で共有して貰いたい。共有することで、一部の職員に過度な負担がかからないようにしなければならない。
- ・次年度は早い段階で教育センター指導主事による職員研修等を行い、新学習指導要領実施年度に向けた取り組みを行っていきたい。
- ・今後もスムーズな教育活動と教師の多忙化も鑑みながら、ビルドアンドスクラップに努めていきたい。
- ・今後も全職員に締め切り期日と呼びかけ、健全な教育支援システムの運用を行いたい。
- ・県や熊本市の動き、社会の流れから見て校則や生徒指導について大きく見直すべき時期に来ていることは肌を感じている。本校でも前向きに今後の菊農の在り方を模索していかなければならないのではないかと考えている。
- ・個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成について、支援計画の引継ぎ件数の増加と、診断名を持つ生徒の増加に伴い、主たる作成者となる担任の負担感が年々大きくなって来ている。
- ・コロナウイルス感染拡大防止策を講じながらの授業で、グループやペアでの協働学習の場面が取りづらくなっており、1時間の授業のほとんどの時間が講義形式になりがちである。あるいは、感覚過敏がある生徒にとってはマスク着用が「刺激」になる場合もある。すべての生徒、特に集中力に課題がある生徒にとっては、これまで以上に、学習に支障が出ている可能性がある。新しい環境、困難な状況下で、もともと苦手だったことに取り組んでいる生徒が多いということを、学校全体で共通理解を持ち、生徒への支援や声かけの在り方、授業の改善にも今後一層の工夫が必要である。
- ・評価の点で通常の授業等での変容や様子を掴みきれない部分があったため、さらなる情報共有に努めていく必要がある。現在、授業の評価や検討において巡回相談員に頼っている現状がある。全体的なスキルアップを図るためにも、自立活動の理解啓発にも力を入れていきたい。
- ・人権教育に関しては、今後の課題として一過性の学びではなく継続した学習の機会を確保していくことが必要だと感じた。併せて、人権教育推進委員会があまり機能しなかったので委員会を機能させ、学校全体で人権教育について取り組んでいく体制を作っていくこと、関係法令については短時間でもいいので定期的に周知できるよう計画的な取り組みが今後必要である。
- ・人権教育に関する校外研修については、本年度も全員参加を呼びかけていたが、ほとんどの研修が中止されたことで学習の機会を失った。校外に出なくても学べるような工夫が必要である。
- ・今年度、研修入寮が実施できなかったため、来年度以降、研修入寮が始まった場合の2年生の研修入寮時の寮内での日課や過ごし方が心配である。

- ・今年度、長期寮生の寮内でのレクレーション等が全くできなかったため、先輩後輩のかかわりが薄い。来年度以降、4人部屋に戻した際のトラブルが危惧される。
- ・来年度も長期寮生が2人部屋体制で運営する場合、インフルエンザや感染性胃腸炎、新型コロナの濃厚接触者が数名でた場合、空き部屋がない。来年度の長期新入寮生数は分からないが空き部屋の確保を考えなければならない。
- ・農業高校である本校は、日々の生活や学習活動を通し、様々な環境に対しての問題を考える機会を生徒に投げかけ、意識を更に向上させていきたい。
- ・農業クラブ全国大会（熊本大会）に向けた担当校としての準備や、上位入賞を目指した指導体制の構築を始めなければならない。
- ・持続可能な開発目標（SDGs）についての学習を深め、生徒・職員共に、身の回りの環境美化から、地域・社会が抱える環境問題まで幅広く考え行動することのできるよう、能力や態度の育成を図っていきたい。
- ・今後も、感染症対策のために電気使用量の増加が予想される。生徒職員の節電意識を更に高め、前年度比3%削減に向けて引き続き取り組んでいきたい。
- ・次年度も新型コロナウイルス感染拡大防止の取組が続くため、保健教育関係が重要になるため、人数を増やすかコロナ対応の専門部会の設置が必要と思う。
- ・担任の負担軽減と窓口一本化を図るため、進路サポーター制度を導入したい。（進路指導部職員が各クラスに1名加わることで進路部との連携をスムーズにし、担任の支援も行う）
- ・これまで公務員希望者は学校に何も提出する必要が無く、いつどこを受験するのか全く把握していなかったため、公務員希望者にも「受験願」を提出させるようにする。
- ・今年度は求人を取り消しが多く、本校でもWeb求人で受験予定の企業を取り消しており、それに気づいたのが応募直前であった。Web求人は取り消しの案内が無いので、紹介前・応募前などその都度チェックすることが必要である。
- ・四年制大学希望者へは2年生の3学期に、担任（副担任）・学科・教科担当・部活動顧問等でチームを作り、早めの対策と徹底した指導を行ってきたい。
- ・進学用調査書の様式が変わり、作成においては担任だけでなく、各学科や部活動の担当者が生徒の日々の学校生活の様子や成長について検討し合えるような場が必要である。
- ・進路希望調査が報告の為の調査になってしまっていたので、生徒が自分の進路についてしっかり考える機会にする為、調査前に進路LHRを設定したい。
- ・進学用の調査書は今年度から書式が変わり、3年次になってから書き始めると担任の負担がかなり大きくなる。そのため、次年度ではなく今年度から1、2年次の担任が進学用調査書にある程度記入をして貰うよう働きかけたい。
- ・毎年、生徒は面接試験で敬語を使うことに苦労している。そこで、普段から丁寧な言葉遣いや目上の人に対する敬語の使い方に慣れさせるために、職員が手本を示していきたい。まずは、男女関係なく「～さん」で呼んでみてはどうだろうか。
- ・今年度は、コロナ禍で各種行事が実施できなかったため、来年度どのような形で実施できるのか、早めに検討しなければならない。
- ・育友会総会の決済の返答が68%程度であったため、参加率を上げる工夫を役員会で話し合っていく必要がある。また、ゆうネットを使用し、育友会の行事や日程等、活動の様子を職員にも周知していきたい。
- ・行動目標表の活用が不十分であったため、年間を通して定期的に自己を振り返り、意識付けを行うこと及びアクティブラーニングによる教え合いや協働して活動する機会が少なかった点が2年次での課題である。
- ・遅刻については、全体的に担任と保護者の連携によりいったん減少するがまた増加するの繰り返しで現状である。遅刻生徒に対する学年でのサポートが今後の課題である。
- ・1年生は2学期には学校生活にも慣れ、授業中の私語等が一部の生徒で頻繁に見られるようになった。教科担当者・担任・学科・生徒指導部と連携し、指導を行うと落ち着きを見せるが、根本的な改善になっていない部分もあり、このような生徒への学びに向かう姿勢を醸成することが次年度への課題である。
- ・3学期は休み時間の過ごし方（大声、走り回る）に注意をすることが増えた。2年次の教室は3階となり、教師の目が届かない場所になるため、自分たちで自己管理する力を育てることが課題である。
- ・本校は制服の移行期間は無いが、登下校は冬服（ブレザー、ネクタイ）を着用する機関（11月～4月）等を検討してはどうだろうか。
- ・月1回の委員会活動を実施してみてはどうだろうか。検討して貰いたい。